

2016年

4月号 No. 62

4月6日発行



原水協通信 (茨城版)

原水爆禁止茨城県協議会 〒310-0912 茨城県水戸市見川5-127-281 水戸平和会館内
TEL/FAX 029-251-9919 e-mail antiatom-i@email.plala.or.jp 会長 加藤 岑生

頒価 ¥220/月
毎月6日発行

核兵器廃絶署名
49,237筆
(4/1日現在)

被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名(新しい署名)と

全国一斉署名行動についての要請

日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)は3月23日、東京都内で記者会見を開き、「被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」をよびかけました。署名は4月1日からスタートします。被爆者がよびかける署名は初めてのことです。

「よびかけ」は、被爆者自らの悲惨な体験の上に、「悪魔の兵器」である核兵器の廃絶を訴え、平均年齢80歳を超えた被爆者は、後世の人々が生き地獄を体験しないように、「生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したい」と切望しており、その実現のために、核兵器を禁止・廃絶する署名への賛同をよびかけています。世界数億を目標に、毎年の国連総会に提出します。

日本原水協は、被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名を「全面的に支持し、積極的に協力」します。「核兵器を禁止し、廃絶する条約」締結を求める一点で、思想・信条・垣根を超えた幅広い協力と共同をめざします。

新しい署名運動の成功へ、以下の行動をよびかけます。

記

1. 4月6日、9日を新しい署名の全国一斉行動日として成功させましょう。
・すべての都道府県・市区町村で被爆者(団体)とともに、新しい署名に踏み出しましょう。
2. 署名の全国的推進については、4月21日、22日に予定している第315回常任理事会で具体化・意思統一をはかります。各都道府県では被爆者(団体)との懇談・協議をすすめ、新署名の構想やとりくみの具体化をはかり、会議に持ち寄りましょう。

5・3憲法フェスティバル実行委員会にご参加を!

テントの設営・飾りつけなどにご協力をお願いします。

主なプログラム予定

原爆パネル展

「高橋久子物語」(茨大生制作による紙芝居)

※ 連絡は原水協事務局まで



今月の草花

我が家の庭は、いま百花繚乱。迎春花、雪柳、ミツマタ、下にはスノードロップ、ムスカリも。風呂から眺める筑波の山並みはサイコー。低山ですが、時に雲海も発生します。

ハナニラは球根で増え、葉や茎を切るとにらのような匂いがします。にらの花は食べられますが、これはヒガンバナ科ハナニラ属なので、有毒です。原産地はアルゼンチン。(柳)



3月25日撮影・S. Yanagioka

ハナニラ

平和行進と世界大会への準備のお願い

1. 平和行進について

・それぞれの地域で事前に実行委員会を立ち上げ、行進で通過する自治体にカンパ、ペナント、署名や原爆パネルの購入・開催、首長の行進参加とメッセージの要請をお願いします。

・平和行進は6月30日に茨城に引き継がれます。特に、①6月30日(木)引き継ぎ集会②7月4日(月)県庁前集会③7月13日(水)百里平和公園の三つの集会を成功させるため、多くの方にご参集の呼びかけをお願いします。

2. 世界大会について

・今年の世界大会は広島大会がメインです。海外からの観光ブームのため宿の確保が非常に難しいです。このため、すでに50名分を予約、確保しています。さらに、今年は7月に参院選があります、準備を確実にお願いします。今月4月中に代表を決定して下さい。大会は待ったなしです。ブッシュ政権下の高官でジャパン・ハンドラーといわれるアーミテージやラムズフェルドに旭日大綬章を贈った安倍内閣です。アメリカの核の傘の下にいつまでも留まっていたは日本は滅亡してしまいます。



北朝鮮の核実験について

自民党は、北朝鮮への「抑止力」を強調していますが、こうした問題を解決するには、対話以外にないのではないのでしょうか。

北朝鮮を、6か国協議のテーブルにつかせる努力をすることが、一番の近道でしょう。北朝鮮の最優先課題は日・米への核攻撃ではなく、現体制維持と国際援助です。

昨年一月、「米韓合同演習を中止するなら、核実験中止の用意がある」の表明がありましたが、米は無視。先だって、米韓合同演習をした直後に北朝鮮は核実験をしましたが、このような対応は最悪です。

北朝鮮の瀬戸際外交は許せませんが、国連では核兵器禁止条約の交渉開始に賛成しているのですから、私たちは「核兵器廃絶」へ向かわせる努力をしなければなりません。

核が存在する限り、偶発的事故を含めて火種がなくなりません。核の使用は、他の国の市民なら地獄に落としていい、との考え方です。これが「非人道的」でなくてなんでしょうか。そのために「法」による支配が必要なのです。核保有国とともに「核の傘」に依存する同盟国の役割が重要です。とりわけ被爆国日本は、核保有国と同様一連の決議に反対、棄権しています。本来は核兵器の非人道性を訴え、法的措置を主張していくべきです。

被爆国でありながら「核抑止」に固執する態度は、核保有国への配慮であり、国民への背信です。戦争法廃止と立憲主義の回復の運動と連帯し、被爆者とともに歩んでいきましょう。

・参考(前衛16.4月号)

お知らせ

4月13日(水)茨城「市民連合」発足会

会場: 茨城福社会館

18:00 開場

18:30 開演

ロングラップ環礁元上院議員アバッカ・アンジャインさんのお話を紹介します。(ビキニデー大会 2 月 28 日 - 国際会議で)

初来日そして連帯

私が初来日、焼津に来たのは 2000 年でした。当時私はロングラップ選出の上院議員に当選したばかりで、世界の核問題やマーシャル諸島の問題、人権を守ることの意味や人権侵害も今日まで教えてくれたのはみなさんでした。マーシャル全員、みなさんの真の友情に心から感謝しています。

以来、みなさんの足跡をたどりながら、たくさんの活動を積み重ねてきました。今年初めて、3 月 1 日の核被害者追悼デーは政府よりも NGO が中心になって組織されます。

そして今年初めて核被害者追悼行事を、クワジェレン環礁イバイ島でも行ないます。また、マーシャル諸島政府による核保有国の提訴について国際司法裁判所 (ICJ) で審理が行われます。

核実験のモルモットに

アメリカは、わが国政府が要請した、多くの新たな被害事例への追加補償を求めた「状況変化申し立て (Changed Circumstances Petitions)」を拒否し、被ばく者に対する医療プログラムの改善も行っていない。しかし ICJ への提訴は、被ばく者問題に終止符を打ち、新たな出発点となるかもしれないという希望をもたらしています。ロングラップの女性たちは、アメリカが「世界平和のため」として核実験を行い世界の超大国になるための犠牲にされ、大変な苦しみを経験してきました。

1954 年 3 月 1 日、ビキニ環礁から 300 マイルの所にあるロングラップ環礁と、ビキニから約 100 マイルの所を航行中だった第五福竜丸はどちらも、「ブラボー実験」で汚染されました。これが日本とマーシャルの人々の生活を永遠に変えてしまったのでした。

ベティ・エドモンド

今回、私はベティ・エドモンドの話をしたいと思います。

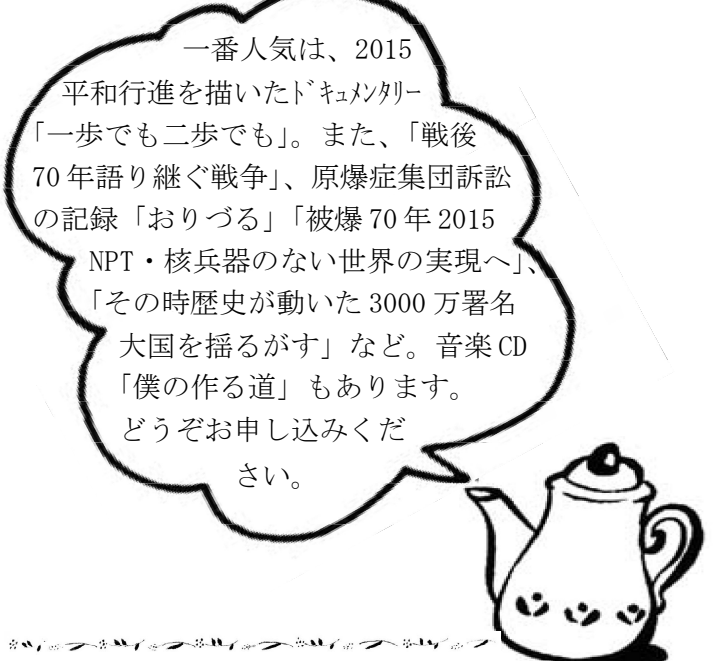
ブラボー実験の時、彼女は 12 歳でした。降ってきた死の灰を雪か石けんと思い、手にすくって髪の毛や顔、腕などにこすりつけて遊びました。その日遅く、子供たちは助けを求めかゆく駆け回り、吐き気と下痢に苦しみました。診てくれる医者も薬もない中で、島の 82 人は、苦しみを和らげるためにできることは何でもしました。3 日後、アメリカ人がやってきて、島民をクワジェレン基地に避難させました。そこでは、放射線の影響を研究する 4・1 プロジェクトが始まっていたのです。島民はそこに 3 か月間留め置かれ、その後マジュロ環礁のエジット島に移され、1957 年までそこで暮らした後、ロングラップに帰島させられたのです。1985 年、ロングラップ島民は汚染から逃れるために、クワジェレン環礁のメジャット島に移住、現在もそこで暮らしています。

ベティは流民の生活を強いられ、子供のころからいつも恐怖にさいなまれてきました。彼女は被ばく以来、米エネルギー省が自分を治療しているか研究しているか、いつも疑っていました。

今ベティは乳がんを患い、ホノルルで治療を受けています。彼らは、甲状腺癌、乳癌、結腸癌、胃がん、肝臓がん、そして糖尿病や血球数の低下などの病気も検査します。しかし、彼女は今年の 11 月に初めて癌を知らされ、その時すでに進行しており、手術が必要で、治療には 4 か月かかることを知りました。彼女は乳がん前に二度甲状腺の手術を受け、流産も幾度か経験、夫もガンでなくなりました。これがベティの人生です。

核兵器に向き合って

茨城県原水協ではこのほど、ビデオ&CD ライブラリーを開設しました。



早く死なないで運が良かったと言われるかもしれませんが、その分苦しみは長く続きます。彼女は島民がロングラップに戻ることも支持していません。帰島するにはまだ十分でないと考えているのです。ロングラップのインフラを整備することだけでなく食料安全計画、経済発展も必要です。そして何よりも、放射能の汚染除去が米国、マーシャル諸島政府、ロングラップ環礁自治体と人々の間で合意された安全基準を満たすまで、きちんと行われるべきです。

ベティが強い心をもって生きていてくれて、控えめながらも、自分の経験を話してくれたことに感謝します。話をすることは時には困難です。というのも、人々に放射能による真の被害を理解してもらうためには、マーシャルの伝統的な慣習も破らなければならない時があるからです。ベティ、あなたは私たちの英雄であり、あなたの人生のたたかいは、私たちと世界のためのたたかいです。私の叔父であるジョン・アンジャイン、ネルソン・アンジャイン、私の父、ジェットン・アンジャイン、いとこのリジョン・エクニランらと同様、私たちはあなたを決して忘れません。

最後に、ブラボー実験が私たちに与えた被害を風化させてはなりません。このようなことが再び起これば、その傷跡は数百年を超えて続くからです。私たちの先人たちを大切にし、お互いに連帯し、核兵器が二度と使用されることがない世界を実現しましょう。

編集後記

「三寒四温」の日々が続いています。春は「スプリング」。文字通り、心がバネの様に心はずむ季節ですが、一方で花粉に悩まされている方も多い。

しかし、もっと悩まされるのは「アベ・クーデター」。これを一刻も早く食い止めないと大変。なにしろ「日本の核の保有、使用も現憲法上許される」というのですから。

何かといえど中国・北朝鮮を危険視しますが、獅子身中の虫に用心しなくては。(柳)

2016 年 3・1 ビキニデー集会に参加して民青同盟茨城県委員会／高橋誠一郎
今年の 3・1 ビキニデー集会は、安倍政権が安保法制 (戦争法) を強行成立させてから初めてとなる集会でした。私自身、最近の激動の政治情勢の下で今回の集会に参加できたことと、全国の「核・戦争できる国づくり」に反対する活動が草の根で展開し、その様子を知ることができたことは大きな収穫でした。特に、全体会での被爆者の方々によるアピールで、「生きているうちに核兵器廃絶を」という呼びかけのもと、新しい署名活動に取り組むことが報告されたことは、私自身、戦争や核兵器による被害を風化させてはならないという思いを強め、戦争体験を語り継いでいく若者の責任を痛感しました。
分科会では、「若い力で核兵器のない世界と戦争法の廃止を」に参加し、2000 万人統一署名や核兵器廃絶を求める署名に取り組むにあたっての「コツ」を知ることができ、世論の高まりを知らせることが重要であるという署名の意義や、テクニックよりも強い気持ちが重要である、という心得を学びました。これからの民青同盟での署名活動に大いに役立てていきたいと思っています。
今回のビキニデー集会への参加で、核兵器の廃絶、戦争法廃止の重要性を再認識しました。ビキニデー集会で学んだことを、参加することができなかった、共に活動する茨城の仲間にも知らせていきたいと思っています。